

博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1855 号

学籍番号

氏名 齊藤 恵美子

論文審査員

主査(教授) 城戸 照彦

副査(教授) 泉 キヨ子

副査(北海道大学教授) 佐伯 和子

論文題名 Predictors of certification for long-term care need in community-dwelling older adults

論文審査結果

1. 論文内容

本研究は、高齢者を対象とした健康診査（以下健診）受診者の身体的特性、生活機能、心理社会的特性、生活習慣に関する項目から、要介護認定の発生を予測する因子について明らかにすることを目的とした。A 県 B 村在住の満 70 歳以上の全高齢者のうち、要介護認定者と入院・入所中の者を除く 1,381 人を対象として、2004 年 7 月の健診時に面接調査と体力測定を実施した。未受診者については、対象地区を 1/2 抽出し訪問調査を実施した。これらの面接実施者 839 人について、要介護認定の発生の有無を 18 カ月間追跡した。その結果、認定者は 42 人（5.0%）であった。要介護認定の発生を目的変数とした Cox 比例ハザードモデルによる多変量解析の結果、年齢（ハザード比（以下 HR）=3.03、95%信頼区間（以下 95%CI）：1.46-6.25）、長座位立ち上がり時間（HR=3.32、95%CI：1.40-7.87）、生活機能（HR=2.69、95%CI：1.35-5.35）、もの忘れ（HR=2.40、95%CI：1.04-5.52）、糖尿病（HR=2.34、95%CI：1.05-5.21）の 5 因子が抽出された。これらから、要介護認定を予測する因子として、高年齢（80 歳以上）、長座位立ち上がり時間（4 秒以上）、生活機能（10 点以下）、もの忘れ（あり）、糖尿病の既往（あり）が明らかになった。

2. 審査結果

本研究で得られた予測因子の中でも、長座位立ち上がり時間と糖尿病の既往は新たな知見である。長座位立ち上がり時間は、高齢者の生活様式にそった簡便な体力測定法であり、今後の普及が望まれる。糖尿病については、先行研究では関連が明らかではなかったため、発症年齢、身長、体重、BMI などの詳細な項目を設定していなかったが、これらの因子の探索についても今後の研究の発展につながると考える。また、今回は要介護認定を事象の発生としており、要支援、要介護 1 などの軽度者が含まれているため、「寝たきり状態」の原因として先行研究で明らかにされている脳卒中、転倒などの因子は抽出されなかった。軽度者を含め、リスクの高い高齢者の早期把握が可能な因子として、本研究で得られた結果は有用と考える。

以上のことから、本論文は先行研究では数少ない要介護認定を事象の発生とした前向きコホート研究として意義があり、博士の学位を授与するに値する。